

農作物病害虫発生現況情報（5月） 水稻編

1 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は39.4%（平成24.3%）で平成より高かったが、発生箱率は0.17%（平成0.39%）で平成よりやや低かった（表1）。
- (2) 腐敗症状苗20サンプルについて菌の分離を行った結果、もみ枯細菌病が15点、苗立枯細菌病が1点であった。なお、菌種の判別ができなかったものが4点あった。

2 苗立枯病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は15.2%（平成31.6%）、発生箱率は0.07%（平成0.23%）で、ともに平成より低かった（表1）。
- (2) 関与菌は、ピシウム属菌（ムレ苗含む）であった。

3 ばか苗病

- (1) 県内広く発生が確認されたが、発生箱率は0.22%（平成0.57%）であり、平成よりやや低かった（表1）。

表1 育苗施設の病害発生状況（調査日：4月28日～5月11日）

単位：巡回調査施設数

調査地域	調査施設数	病害発生施設数			
		細菌病類	苗立枯病	ばか苗病	
県北部	3 (3)	1 (0)	0 (1)	2 (3)	
県中部	16 (16)	7 (4)	3 (7)	15 (14)	
県南部	11 (11)	4 (0)	2 (3)	10 (10)	
遠野・沿岸部	3 (4)	1 (0)	0 (2)	3 (4)	
合計	33 (34)	13 (4)	5 (13)	30 (31)	
発生施設率 (%)	R4	—	39.4 (12.1)	15.2 (39.4)	90.9 (97.0)
	平成	—	24.3	31.6	90.5
発生箱率 (%)	R4	—	0.17(0.17)	0.07(0.05)	0.22 (1.53)
	平成	—	0.39	0.23	0.57

※ () は令和3年の調査結果

※ 平成：H24-R3 10ヶ年

4 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第4半旬に成虫の侵入が確認された（田植日：5月19日）。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、成虫の発生圃場率は4.7%（平年3.6%）であり、平年並であった（図1）。

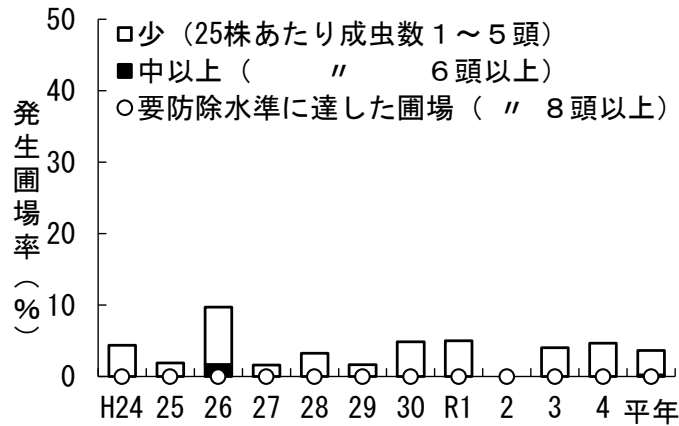


図1 イネミズゾウムシ成虫の発生圃場率の年次推移（5月下旬）

5 イネドロオイムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第5半旬現在、成虫の侵入は確認されていない。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、平年同様、成虫の侵入は認められず、産卵も認められなかった。

6 イネミギワバエ

- (1) 5月下旬の巡回調査では、産卵がみられた圃場率は2.3%（平年19.6%）であり、平年より低かった（図2）。

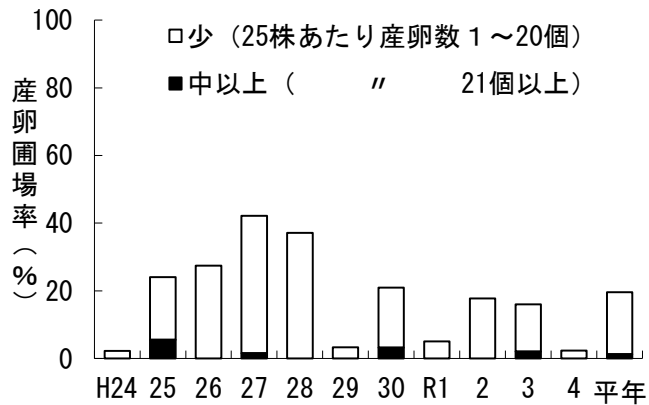


図2 イネミギワバエの産卵圃場率の年次推移（5月下旬）

7 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、5月第2半旬に越冬世代幼虫、第5半旬にアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫が確認された。アカスジカスミカメ成虫の発生は確認されていない（表2）。

表2 基準圃場における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（北上市成田、往復20回振）

調査日	成虫 (頭数)		幼虫 (頭数)
	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	
5/2	0	0	0
5/6	0	0	2
5/12	0	0	12
5/17	0	0	22
5/23	0	17	5